

# 復興を歩む

vol.21

飯館中学校のふるさと学習

12月18日、飯館中学校で、ふるさと学習発表会が行われ、88人の全校生徒が縦割りの班で取り組んできたふるさと学習の成果を、「ドラマ」「ディベート」「ものづくり」の3つのテーマで発表しました。

ドラマ班は、仮設住宅の入居者や避難先で農業を続ける村民を取材し、帰村をめぐる3世代家族の葛藤と、未来への前進をシナリオに表現。家族が考えの違いを乗り越えていく日々を、いねいに演じて観客をひきつけ、終演は熱い拍手に包まれました。「帰村や復興へのほくたちの思いは明確になった。パズルのピースのように小さな思いだけけれど、ピースが集まりパズルができるように、思い描く飯館村はきつと現実のものになる」。10年後の村の姿を一人ひとりが語り、発表は幕を閉じました。

ものづくり班は、3つの制作物を完成させていました。村民歌の歌詞を刻んだ木製のレリーフ、村を紹介するパンフレット、郷土料理のレシピ集を披露。レシピ集から、蒸したジャガイモに甘味噌をからめた「みそいびり」を振る舞いました。

飯館中学校のふるさと学習は、平成24年、仮設住宅で清掃・炊き出しを行ない入居者と交流することから始まりました。平成25年から、1年生が田植え踊り、2年生が民話の紙芝居制作、3年生が味噌の仕込みと郷土料理に取り組むなど、避難の中でふるさとを学び、経験を深めてきました。こうした実践が高く評価され、平成28年、博報賞を受賞し、合わせて文部科学大臣賞を受賞したところです。

今年度はさらに「復興のために自分たちができること」をテーマに活動を展開。発表後、菅野佑斗さん（3年生）は「ふるさとに対する意識が変わったし、いろいろな見方、意見があることも分かった」と取り組みを振り返りました。生徒がふるさとと真剣に向き合う姿は、そのものが「希望」です。復興と新たな村づくりに挑戦を続ける村民を奮い立たせてくれる大きな力です。

「草野・飯桶・白石小学校の3校を統合すべきである」を論題としたディベート班の発表。肯定派と否定派が、統合で生じる学校体制の変化や、少人数学級のメリット・デメリットなどについて、専門家の研究やアンケート結果を引用しながら論じました。写真は、質疑のやりとりを真剣に見つめる生徒たちのようすです。また、発表会の第2部では、復興で最も大切なのは「お金」か「人」か「気持ち」かというテーマで、白熱のパネルディスカッションも行われました。自らの考えを語り、人の意見に耳を傾け議論する生徒たちに、「質の高い発表に驚いた」「これまで高め合ってきたようすが分かる」と来場者の賞賛が集まりました。

